

♪♪♪ いい歌、いい町、いい自然 ♪♪♪

No. 475

2002. AUG

広報

あかいけ

8

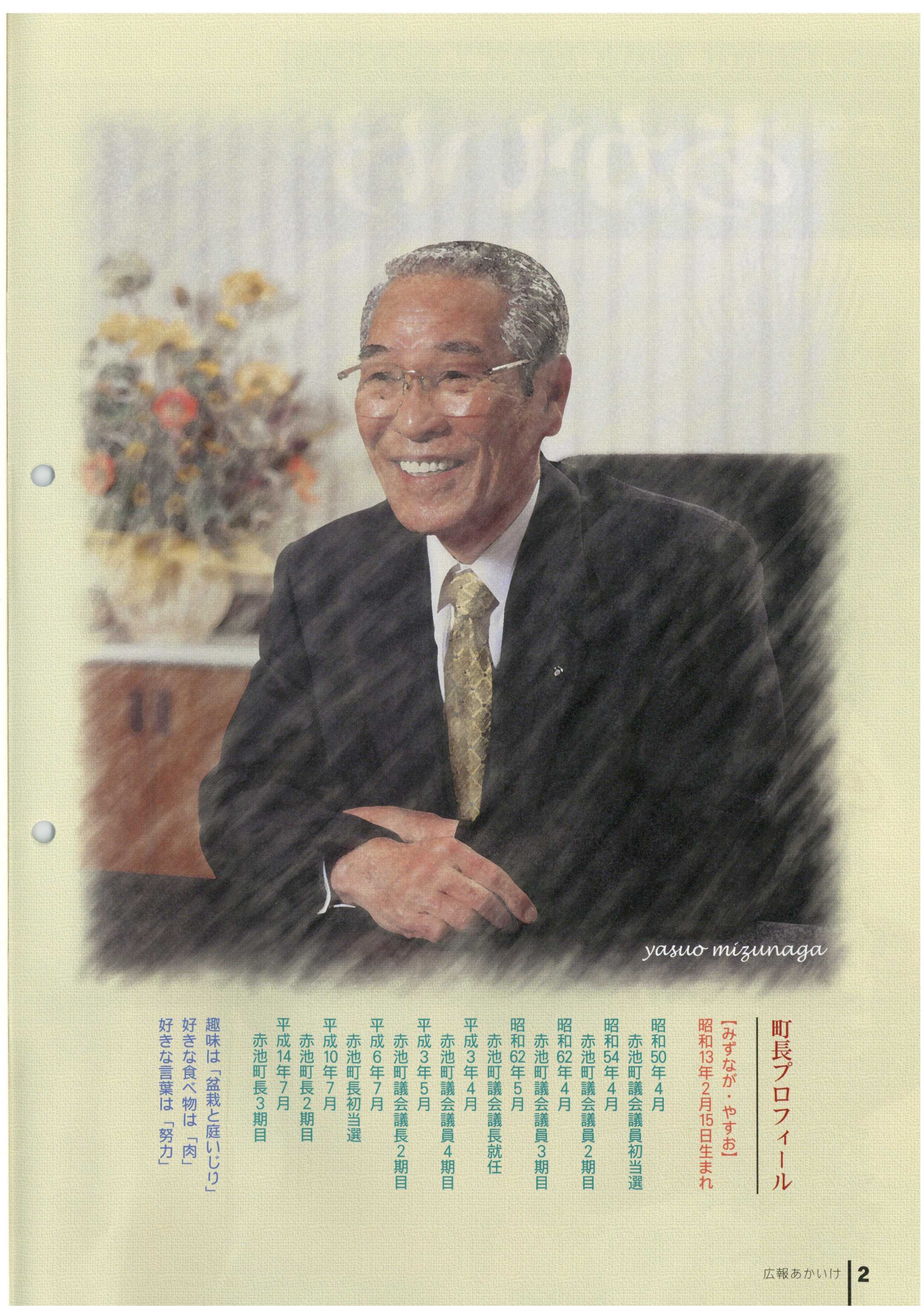
Fresh Summer

夏



特集

町長
語る



yasuo mizunaga

町長プロフィール

「みずなが・やすお」

昭和13年2月15日生まれ

昭和50年4月

赤池町議会議員初当選

昭和54年4月

赤池町議会議員2期目

昭和62年4月

赤池町議会議員3期目

昭和62年5月

赤池町議会議員長就任

平成3年4月

赤池町議会議員4期目

平成3年5月

赤池町議会議員2期目

平成6年7月

赤池町長初当選

平成10年7月

赤池町長2期目

平成14年7月

赤池町長3期目

趣味は「盆栽と庭いじり」
好きな食べ物は「肉」
好きな言葉は「努力」

町長が語る

3期目の水永町政と赤池町の展望 保健・福祉・医療のまちづくり

3期目始動——6月18日に告示された赤池町長選挙で水永康雄町長が無投票で3選しました。地方分権、交付金の抑制、市町村合併などの荒波が押し寄せるなか、町の財政再建明け後のかじ取りを担います。この広報紙の発行責任者でもある水永町長が、3期目の町政について語りました。

依然として厳しい町の現状

平成十三年十二月に総務省より財政再建完了が確認されて以来、各種団体や住民の皆さんからたくさんのご要望が寄せられています。ご承知のとおり、地方自治体は地方交付税をはじめ税収減による財政難や地方分権による国・県からの権限委譲などにより、全国的な行財政危機に直面しています。

同じく、わが赤池町も準用財政再建団体から脱却したとはいえ、産炭交付金などの貴重な収入がなくなりつつあり、このままのペースで行くと数年後には再度赤字になる可能性があります。普通交付税だけでも平成十三年度は前年度に比べ約一億一千八百万円減収、さらに十四年度は一億三千四百万円収入が減る見込

みで、この二年でおよそ三億七千万円もの減収が見込まれます。そして来年度以降も収入減が予想されています。「赤池町は依然として厳しい状況に変わりはない」といった現状です。ですから、現在たくさん寄せられている全ての要望に対し、一度に出来ることはとうてい不可能です。財政状況と見合わせながら「計画的かつ効果的に行財政を進めることが最重要」だと考えます。

再建明け後開花する福祉のまちづくり

確かに厳しい現状ではありますが、暗い話ばかりしても仕方ありません。赤池町には国指定の伝統的工芸品である上野焼、河村光陽生誕地としての童謡まつりや豊かな文化、

特産品の赤池梨をはじめとする農産物や花卉、福智山麓の美しい自然、雄大な景観などに恵まれています。それらを活用したまちづくりを健全財政のもとで進めていく。そして、住民が安心して暮らせる「保健・福祉・医療を一体化したまちづくり」、これは「上野小学校の建て替え」とあわせて私の三期目の公約なのですが、町立病院を建て替え、保健センターなどを含んだ医療施設として統合した「複合施設の建設」を計画的に実施したいと考えています。



この度、無投票で町長に三選いただき、心よりお礼申し上げます。今までの二期八年間の町政にご理解をいただいた結果だと感じております。本当にありがとうございます。ありがとうございました。四年間、初心に帰って町政運営に邁進いたしますので、今後とも一層のご支援をお願いいたします。

赤池町長 水永康雄



歴代 町長・議長

赤池町長

初代	池田勝三郎	S 11. 10～S 11. 10
2	藤村高次郎	S 15. 11～S 19. 11
3	藤村高次郎	S 19. 11～S 21. 10
4	池永平治郎	S 22. 4～S 26. 4
5	池永平治郎	S 26. 4～S 26. 12
6	藤村高次郎	S 27. 1～S 31. 1
7	藤村高次郎	S 31. 1～S 35. 1
8	藤村高次郎	S 35. 1～S 39. 1
9	木村繁太郎	S 39. 1～S 43. 1
10	木村繁太郎	S 43. 1～S 47. 1
11	池永 輝昭	S 47. 1～S 51. 1
12	池永 輝昭	S 51. 1～S 55. 1
13	池永 輝昭	S 55. 1～S 55. 7
14	香月 章	S 55. 8～S 59. 8
15	池永 輝昭	S 59. 8～S 61. 6
16	日野喜美男	S 61. 7～H 2. 7
17	日野喜美男	H 2. 7～H 6. 7
18	水永 康雄	H 6. 7～H 10. 7
19	水永 康雄	H 10. 7～H 14. 7
20	水永 康雄	H 14. 7～現 在

※ 町長議長ともに敬称略

赤池町議会議長

初代	池永平治郎	S 21. 10～S 22. 4
2	荒木 利雄	S 22. 5～S 26. 4
3	荒木 利雄	S 26. 5～S 30. 4
4	荒木 利雄	S 30. 5～S 34. 4
5	船津 隆男	S 34. 5～S 38. 4
6	立花全兵衛	S 38. 5～S 40. 5
7	井上牛之助	S 40. 5～S 42. 4
8	池田 勝	S 42. 5～S 46. 4
9	井上牛之助	S 46. 5～S 48. 5
10	井上牛之助	S 48. 5～S 50. 4
11	早麻 豊	S 50. 5～S 54. 4
12	早麻 豊	S 54. 5～S 56. 5
13	池田 利文	S 56. 5～S 57. 6
14	浦田 勇	S 57. 6～S 58. 4
15	立花 杉夫	S 58. 5～S 62. 4
16	水永 康雄	S 62. 5～H 3. 4
17	水永 康雄	H 3. 5～H 6. 4
18	小松 春義	H 6. 4～H 7. 4
19	大島 勇夫	H 7. 5～H 10. 3
20	木月 繁美	H 10. 3～H 11. 4
21	小松 春義	H 11. 5～現 在

歴代の町長を見ると、藤村高次郎氏が5回（うち2回は地方自治法施行前）、池永輝昭氏が当選4回、次いで水永町長が3回となっています。連続3期以上務めたのは、藤村高次郎氏と池永輝昭氏、そして水永町長の3人のみ。このうち県議会議員になったのは日野喜美男前町長。町議会議長の経験がある町長は池永平治郎氏と水永町長の2人です。

※ 地方自治法施行の昭和22年後からみた資料では、初代議長が荒木利雄氏となっています。

まちづくりとは「魅力の創造」、その原動力は「町を愛する気持ち」

町の活性化を「イベントによる過性の人集め」という視点でとらえてはなりません。私が考えるまちづくりは、今住んでいる人が生涯住み続けたいと感じる魅力を生むこと、今住んでいる人だけでなく子や孫までずっと住まわせたいという魅力を生むこと、自分の家族だけでなく他の町に住んでいる知人に対し「ここへおいでよ」という呼びかけができる魅力を生むこと、この三点だと考えます。まちづくりとは、人を定住させると同時に、他町村から人を呼び込むような状況を作り出すことです。すなわち「魅力の創造」だと思うのです。

動き出した 三期目の二つの公約

先ほど言いました保健・医療・福祉を融合した「複合施設の建設」と、老朽化した「上野小学校の建て替え」の二点が私の公約です。複合施設については、建設委員会を立ち上げ、早速今月から検討を進めて行く考えです。計画としては、

平成十五年度に医療施設を建設し、十六年度に保健センターなどの施設を建設する予定です。私としては、老朽化した町立養護老人ホーム天郷荘と給食センターを建て替え、併設すれば、より効果的な福祉行政が行えるものと思っています。

一方、上野小学校の建て替えについては、すでに今年二月に建設検討委員会を十八人で組織し、平成十六年度の建設をめどに現在調査を進めています。もちろんこの中には地元を中心に住民のかたに入っていたりしています。二点の公約だけにとどまらず「あ

らゆる行政運営を進める中で、住民の皆さんの声を聞きながら、町政を行っていく」それが、私の基本姿勢です。

行政への理解は 職員の姿勢で決まる

不景気で倒産やリストラが相次ぐ中、町職員には住民の皆さんからいっそう厳しい視線が注がれると思います。私はあえて職員や行政の姿勢にもっと注目していただくことを希望します。財政再建中に、たくさ

んのボランティア団体がこの町で生まれたのは、財政再建へ必死に励む行政の姿勢、職員の姿があったからこそだと思っております。

私も行政は、常に住民の皆さんを意識し、緊張感を持ち、何ができるか、どんなサービスが提供できるかを考えなければなりません。そして住民の皆さんには行政に積極的に参加していただき、町に活力を与えて欲しいと思います。その原動力は「町を愛する気持ち」です。それは、この町に生きる自分、家族、自然、全てのものへの愛情から生まれるものだと思っています。



職員の出迎えを受け登庁

花束を受け取り笑顔で三選を報告

菊谷選挙管理委員長から町長の当選証書を受領

執行部と歓談…ホッと一息